

令和3年12月定例教育委員会会議録

令和3年塩尻市教育委員会12月定例教育委員会が、令和3年12月23日、午後1時30分、総合文化センター302多目的室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 1月の行事予定等について
報告第3号 後援・共催について

4 閉 会

○ 出席委員

教育長	赤 羽 高 志	教育長職務代理者	碓 井 邦 雄
委員	小 林 夕 香	委員	石 井 勉
委員	徳 武 あ ゆ 子		

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	青 木 正 典	生涯学習部長	胡 桃 慶 三
こども教育部次長 (教育総務課長)	太 田 文 和	生涯学習部次長 (社会教育スポーツ課長)	田 下 高 秋
こども課長	竹 中 康 成	平出博物館長	小 松 学
家庭支援課長	植 野 敦 司	図書館 副館長	宇 治 橋 多 恵
主任学校教育指導員	黒 澤 増 博	市民活動支援係長	上 條 さ や か

○ 事務局出席者

教育企画係長 佐 藤 智 樹

1 開会

赤羽教育長 それでは、よろしく申し上げます。

いよいよ年末に入りました。多くの小中学校は今週末で2学期の終業式となります。振り返りますと、2学期がスタートした8月、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、児童生徒の中にも新型コロナウイルス感染者が出まして、学校では感染拡大を防ぐために、該当学級・学年の児童生徒が集団PCR検査を行ったり、兄弟関係の児童生徒は自宅待機の要請依頼をし

たりと、大変厳しい時期がありました。子どもたちにはつらい体験をさせてしまったり、保護者の皆様には子どもたちのために全面的な協力を仰いだり、また、児童館でも、できる限りの対応をしていただきました。

11月に入りますとびたりと第5波が落ち着きを見せ、各保育園、学校では通常に近い状況で、思い出を刻む多くの行事も実施できました。また、市や公民館等の行事も次々に開催されました。

今後も現状維持をしたまま新年を迎え、3学期が無事スタートできますよう、各家庭ではいつもどおり、年末年始も感染予防の徹底をお願いしたいと思います。

それでは、ただいまより12月定例教育委員会いたします。よろしく申し上げます。

2 前回会議録の承認

赤羽教育長 次第に従いまして、2番、前回会議録の承認について事務局からお願いします。

佐藤教育企画係長 前回、11月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認いただいております。本会議終了後に御署名いただきますので、よろしくお願ひいたします。

赤羽教育長 よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

赤羽教育長 それでは、そのとおりにお願いいたします。

3 教育長報告

赤羽教育長 続きまして、3番、教育長報告に入ります。よろしくお願ひいたします。私からは3点報告いたします。

1点目です。11月27日土曜日、塩尻市成人式が行われました。多くの自治体では一度は延期したものの、第4波5波の影響で、令和3年成人式がやむなく中止となりました。塩尻市では、令和3年1月10日に予定されていた令和3年塩尻市成人式を、まず、ゴールデンウィーク5月4日に一度延期いたしました。ところが、4月に入って、県内では1日40人から50人のコロナ感染者が発生したことで、再延期を決定し、11月27日に2度目の変更を行いました。そしてこの日、無事に開催にこぎつけ、この後報告があると思っておりますが、329名の参加者が2部に分かれて、レザンホールで成人式を行うことができました。

今年の成人の皆様は小学校6年生のときに、劇団四季ミュージカル「こころの劇場」がもう始まっています、その鑑賞とか、市内小中学校の卒業音楽会でレザンホールを使って開催してきました。その思い出のレザンホールでの成人式となりました。2部制で、来賓は市議会議長、牧野市議会議員の1人だけでした。2部のときです。新成人の古畑さんと坂本さんから代表スピーチがありました。その一部を紹介いたします。

「全国の成人式も中止となった地域も多くはあっていると聞いています。塩尻市は関係機関の皆様のお力により、私たちは今日を迎えることができました。コロナ禍により、これまでの普通の生活が当たり前のことではなくなってしまいました。しかし、その普通の生活がどれだけありがたく、幸せだということを知ることができました。家族、先生方、地域や周りの方々、友人に無事成人式を迎えた喜びを伝えるとともに、大人としての自覚を肝に銘じ、次の世代につなげられるよう決意を新たに生きてまいります。」

新成人としてのたくましい決意表明を聞くことができました。開催担当の生涯学習部の皆

様からは、最後まで諦めないというか、プロフェッショナルな姿、粘り強さというものを私は学びました。

2点目です。塩尻市では各校学校ホームページがあります。長野県教育委員会ホームページには、長野県の全小学校、中学校が一覧になっているページがありました。学校名をクリックすると、それぞれの学校ホームページにつながるように、設定されています。1年に1回の更新だとか、学校目標で終わっているものもありました。塩尻市のホームページは県内でも先進的な実践があるかなと思います。

どこがすごいかというと、押すと、旬な話題や写真、それから学年だより等のお便りも紹介されております。保護者の方からは、「仕事の休憩時や昼休みに見て楽しんだり考えたりしています」とか、「ほかの学年の様子も分かります。学校の先生方は忙しいと思いますけれども、ぜひ続けてください」といった感想も、私は何回もお聞きしました。

この12月、ある中学校3年生の学年通信に書かれていた、ある先生のメッセージを紹介したいと思います。中学3年の12月です。中学3年生の今、受験は団体戦です。クラスの雰囲気づくりを意識しようというタイトルでした。どんな中身かなと思って、読ませていただきました。

「懇談会が終わりました。今日の懇談会は皆さんにとって本当に大事な懇談会となったことでしょう。受験校や受験の方法が決まった人もいます。また、今後のテストの結果を見て、受験校を判断するという人もいます。どちらの人も入試後に悔いが残らないよう、日々過ごしてください。そして受験は団体戦です。クラスの雰囲気づくりを意識しましょう。受験を控え、クラスの雰囲気はどうでしょうか。みんなで勉強に向かう雰囲気は出せているでしょうか。朝学習に自分から取り組める人、自習の時間に集中して取り組み、充実した時間を過ごす人が少しずつ増えてきていてうれしく思います。いよいよ受験本番、これから苦しい時期がやってくる人もいます。そんなときに、自分の姿で仲間を励ますことができる人になってほしいです。また、生活面はどうでしょうか。時間を守る、話を聞く、ルールを守る、自分の仕事に責任を持って取り組む。どれも大事なことであり、高校が求める姿でもあります。受験はほとんどの人が緊張します。緊張しているときは、いつもの自分の姿が出ます。いつ受験に行っても構わないよう、自分を整えていきましょう。」

中学3年生の受験期はやはりこうだったのだなということを私は思い出しました。3年生はこうであり、また、中学2年生、1年生は、3年生が部活、生徒会から抜けていくわけですから。そこで、中2とか中1というのは、伸び伸びと自分を大きく伸ばす時期を送っているのかな、そして一回り大きくなっていく時期だとも思います。それぞれが自分の夢実現を目指して一步一步積み重ねて、今のこの瞬間、瞬間を大切にしていってほしいなと思いました。

3点目です。12月の11、12日、こどもしおじりがえんぱーく市民交流センター3階を会場に行われました。子どもだけのまち、こどもしおじりは子どもたちがまちをつくる取組です。子どもたちが仕事をして、給料をもらい、納税して、買い物をしたり学んだり遊んだりできます。市長や市議会に選ぶ選挙もあり、企業を起こすことにも挑戦できます。参加要項の中には、参加対象は小学校3年生から中学3年生まで、2日間連続で参加できる人を募集する。今年は100名程度募集すると書かれていました。

回って見て、仕事内容は設計会社とか税務署、図書館、新聞記者、雑貨屋、銀行、本屋、デザイン、市役所、ピザ屋、消防署、マジシャンなどがありました。また、体験コーナーも

あり、出張で平出遺跡の勾玉づくりのブースがあり、平出遺跡ガイド棟の指導員の方が、満員盛況でうれしそうな顔で対応していました。実際に、その各仕事は、みんなプロフェッショナルの大人の方がバックにいて、アドバイスをもらい、子どもたちは仕事を覚えながら働いていました。

選挙応援演説会もありまして、女の子が応援演説をしていました。私は市議会議員に立候補しました。当選したら楽しいまちづくりを目指します。交通事故が起きないように呼びかけます。ルールを守った人は景品をプレゼントする取組をしますと堂々と演説していました。子ども市長は2年任期の1年目で、市議会議員は今年3名が欠員になるということで、3名の新人の市議会議員が立候補しました。したがって、選挙ではなくて、信任投票という形になりました。

塩尻市の小口市長は前半いらしていたのですけれど、次の予定がありまして、途中でお帰りになられました。11時から12時まで、子ども市長、6名の子ども市議会議員と私、教育長、生涯学習部長、それから市民交流センター長との対談会が行われました。その中で、たくさん質問や厳しい要望も寄せられました。最初自己紹介を兼ねて名刺交換をしました。ここに持ってきましたが、子どもたちの立派な名刺がありまして、名刺交換をした後、対談となったわけです。

ここで、胡桃生涯学習部長から、対談の感想を聞かせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

胡桃生涯学習部長 教育長から事前に質問通告を受けておりましたので、御答弁申し上げます。

自分も初めてこどもしおじりを見学させていただきました。本当に、子どもたちが生き生きして、輝いて、頼もしく、本当に見ていてわくわくするというのを感じて、私はとてもうれしかったと思ひまして、本当に子どもたちはいいなというのが率直な感想でした。

私は小口市長と2人で案内をしてもらったのですけれども、私たちが見学しているということに気づかないくらい、一生懸命自分のお店ポスターを書いている子とか、市長が、どんな店なのと聞くと、丁寧に自分の覚えたことを市長に伝えようとしている子とか、あと、印象的だったのは、多分3年生ぐらいの男の子が、市長のところへ来て、市長さん、サインくださいと言ったのが私は印象に残っています。

教育長が最後に言われた、こどもしおじりの市長さんらと対談したときに、丘中3年生の女の子が市議会議員だったのですけれども、もっと税金を教育に使ってほしいとか、GIGAスクール構想でタブレットを生徒に配られたのだけれども、私の担任はITオンチで、先生を指導してくださいとか、大人顔負けの厳しいことをおっしゃるお子さんもいらっしゃいました。

もともとコロナということもあって、通常160人くらいで開催しているところを120人と制限をかけたところ、応募多数で抽選にて開催したこともあったのですけれども、参加していただいた子どもたち、前向きな子どもたちに敬意を表したいと思います。また、それをきちんと親御さんが受け止めて、参加させていただいた親御さんにもお礼を申し上げたいというのが感想です。

開催するに当たり、わおんという団体がプロデュースしてくれているのですが、わおんをはじめ市内の商店街、企業、それから公的な消防署はじめいろいろ方がバックアップをしていただいている中で、子ども自身がやる気を出すか、将来を見据えながら動くというところ

ろを、プロデュースしてもらったということは、本当に頭が下がる思いでいっぱいです。

しかしながら、親御さんが子どもたちの興味あることを常日頃感じる中で、市が行っている事業をきちんと私たちが発信していかないと、それを受け取る側もなかなか知る機会がないということは感じています。これから子どもたちの可能性を引き出せるような事業を企画して実施するに当たって、広く分かりやすく広報していくことが必要だということを感じております。今回短い時間でしたが、子どもたちから勇気をもらい、何か将来は夢があるな、子どもは頼もしいぞというのが感想でございます。以上です。

赤羽教育長 ありがとうございます。今回120人ぐらい参加したのだそうです。まさにキャリア教育というか、自分の将来に向けて感触を味わう場なのかなと思いました。今、胡桃生涯学習部長がおっしゃったとおり、この「こどもしおじり」は、価値があるものだと、私は改めて実感しました。NPO法人わおんに、下支えしてずっとやっていただき、感謝したいと思います。ここに集まった子どもたちが、自分の夢に向かって努力して、本物の市議会議員とか、運営スタッフとか、将来活躍する姿があればいいなと改めて思いました。ありがとうございました。以上3点、報告いたしました。

報告に関しましては、また御質問と御感想、そのほかあると思います。それから、様々なイベントに行かれています教育委員がいらっしゃると思いますので、この後、御意見等を頂きたいと思います。私からは以上です。

それでは、教育委員の皆さんから御発言をお願いしたいと思います。石井委員、お願いします。

石井委員 それではお願いいたします。まず、今、教育長より御報告がありました件に関してなのですが、成人式についての御報告がありました。諦めないで開催ができてよかったなど、そのとおりでと思いますが、やはり制約が相当あっただろうということは、報告を見ても想像がつくところです。

今まで、コロナ以前は実行委員会を組織して、実行委員会の運営で行っていたかと思いません。実行委員を新成人が自分で希望してといいますか、立候補してやっていたと、そのように記憶をしているのですが、今回は多分そういうやり方はできなかったのではないかと思います。また、これから先、感染症の進行、進み具合などによっては、ちょっと実行委員会形式は難しいのかなと考えるわけですが、可能であれば、やはり自分たちの成人式は自分たちで、御報告の中に主体的なという言葉もあったかと思いますが、可能な限り新成人たちの力で、自分たちの成人を仲間たちと祝うという形にしていただければうれしいかと思います。

それから学校ホームページについての御報告を頂きました。塩尻市は大変充実しているということですが、なかなか手の回らないという現実もあるのではないかと思います。その中で学校の先生、職員から家庭なりに向けたお便りが掲載されていて、非常に心に響く内容だということですが、御家庭でそれを読まれて、いいねというような、お互いに意思疎通の場になっていただければ、なおいいかと思います。

ともすれば、学校での過ごし方、家庭での過ごし方というのは、お互いに見えづらい。そんな生活環境が危惧される中では、やはりITツールを活用した相互発信は、今後有効になってくると想像いたしますので、そこに保護者と家庭の居場所的なものもつくっていただければ、一層充実したホームページになってくるのかなという感想を持ちました。

お子さん側から見て、教職員のITスキルがちょっとどうなのかなという御報告もありま

したが、それはやはり時間をかけるところはかけて、目的をまずしっかり見据えて、必要なものを備えていくということ。だから、決して悪いという話ではなくて、こういうふうにやったらどうかというアイデアはお互いに出し合いながら、良いものにしていただければいいのかなと感じております。ちょっと感想的なものになりましたが、お伝えさせていただいたことにつきまして、お答えいただける部分があれば大変ありがたいと思います。以上です。

田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長） 成人式に関しまして、御発言いただきありがとうございます。令和3年成人式につきましては、実行委員募集はしてみたのですが、手を挙げる方が1人もいらっしゃらなかったという事情もありました、実行委員会を組織して、自分たちでつくっていただく成人式を今後も続けていきたいと思っております。

今回の成人式につきましては、行政主催で実行委員会を置かず行いましたので、本当に式典のみの形となっておりますが、令和4年1月実施の成人式につきましては実行委員が、自分たちで記念行事をつくるのだという意気込みで、今準備をしていただいております。また来月、内容等について御報告させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

赤羽教育長 よろしいでしょうか。

石井委員 はい、ありがとうございます。

赤羽教育長 続けて委員の皆さん、ございますか。

石井委員 続けてよろしいですか。

赤羽教育長 続けてお願いします。

石井委員 それでは、学校なりへ顔を出す機会が幾つかありましたので、そこで感じたことなどお話しさせていただきます。今月に入りまして、保育園の園長とお話しする機会が幾つかありました。また、本年も制約のある中ですが、小学校、中学校などにお邪魔させていただいたときの感想なども含めながら、園長とお話しする機会があったのですが、同じように家庭での様子が見えづらい、分かりづらい。目を配っていただいているのは大変ありがたいことなのですが、どうしても家庭側も遠慮してしまうような雰囲気があって、実際困っていることがあってもはっきり分からない。SOSのキャッチがしづらいというお話がありました。

これは感染症の影響も当然あるかと思うのですが、やはりお父さんお母さん方が自分で頑張ってしまったという、今までにもそういうケースがあったかと思いますが、その様子がなかなか変化させづらいというような状況を感じました。これから冬休みに入ると、直接顔を合わす機会も減ってしまって、一層見えづらくなってしまふことも心配ではあります。連携するところはしっかり連携をしていただいて、風通しの良い、家庭に目の配れる状況を一層充実させていただきたいと感じました。

それに関してになるのですが、本日も市民タイムスの一面に、給付金の支給の記事が載っております。塩尻市は現金で10万円ということで、家庭への支援がされるわけです。しかし、度々この給付金などのニュースを見ていて思うのですが、果たして子育て世帯の課題に本当にマッチしたものになっているのかどうか。10万円をもらって、その10万円を何に使うのだろうか。子育てのサポートにしっかりなっているというならば、目的どおりでよかったということなのでしょうけれども、多分、何に使ったかというのは分からないのではないかなと思うのです。変な勘繰りをするわけではないのですが、有効な使い方をされているのかどうか把握する必要があるのではないかと、報道を見ながら感じました。

10万円の使い道によっては、なくなってしまったからまた欲しいと。10万円が10万円のままだこかへ行ってしまうような、市に還元されればまだ効果とは言うのでしょうか、これは検証する必要があるだろうと感じます。またくださいと言っても、はいそうですかという話にはそんな簡単にはならないと思いますので、今回の給付金がそれぞれの家庭なり、町の力になる、そんな使い方をされているのかどうか検証していただければ、充実してくるかなと感じております。以上です。

赤羽教育長 そこはいいですか。

石井委員 何かお考えがあればと思います。

赤羽教育長 まず最初に、こども課長。

竹中こども課長 子育て世帯の支援という立場で、こども課から回答させていただきます。石井委員がおっしゃるとおり、10万円の使い道まではさすがに追っていないというのが現状でして、議論でもありましたが、クーポン形式であれば地元に戻元されるという施策ではありましたが、スピードが大事ということでありまして、本市において現金10万円ということになったかと思えます。

10万円の使い道については、就学前時でありますとランドセルの費用など直接的に子どもに関するものに充てる使い方もあるかと思えます。また、このコロナ禍の閉塞感の中で、なかなか家族で外出もできないという状況が続いていて、やっと少しレジャーも楽しめるような状況になってきた中、そういった使い方も家庭の中での教育にも間接的にはつながってくると考えております。できるだけ子どもに関連する使い方をしていただければ、大変ありがたいと考えております。以上です。

赤羽教育長 家庭支援課長お願いします。

植野家庭支援課長 若干、我々の立場からお話しさせていただきたいと思えます。コロナ禍で、やはり子どもの家庭の様子が見えにくくなっているということは、御指摘のとおりかと思えます。我々としても、長期の休みに入る前というのは非常に心配な時期で、休んでいる間が一番心配といったところで、年末に向けて、心配な御家庭については、こちらのほうでも対応を強化しておりますし、また休み中についても、何かしら連絡が取れるような形で対応してまいりたいと思っております。

給付金に関してですけれども、我々は困窮世帯と関わる場面が多いのですが、今年、貧困対策計画でアンケートを取った際に、すぐ使える5万円のお金があるのかないのかという調査項目がありました。その中で、やはり5万円をすぐに出せるということに困っている御家庭もありました。今回の給付金について、経済的に困っている御家庭については、必要感があって使うということになって、非常にありがたいお金にきつとなるだろうと思っております。

ただ、そのほかの御家庭に関しては、やはり必要感もなければ貯蓄に回ったり、ほかの形へ回っていく要素があるかと思えます。今年度でも、給付金自体は低所得世帯のひとり親世帯子ども1人当たり5万円、その他の困窮世帯も1人当たり5万円という形で給付をしています。そういった形での給付が行われてきているのですけれども、やはりそれだけに関わらず、本当に困り感というものを長期的に捉えて対応していくことが必要だと感じています。私からは以上です。

赤羽教育長 ほかはよろしいでしょうか。

石井委員 御回答ありがとうございました。新しいウイルスが出てきたり、第6波が本当に猛

威を振るったらと、弱いものにその影響が行ってしまうとね、ちょっと怖いなという感じはいたします。即効性のある策はもちろんですけども、継続的に家庭をサポートできる、例えば給付金だけでなく就労の支援もしていくとか、そういったことまで踏み込んでいただくのも一つの方法かなと思います。働かなくてもいいやというような発想になってくると、御家庭自体にもおかしな話でしょうし、それを見ている子どもたちも、そういうものかと、それでは困るわけですね。何とか次へつないでいきたい、自分たちでも頑張っていく、そういう大人の姿を見せてほしいなど、そんなことを感じております。ありがとうございました。

赤羽教育長 続けてお願いいたします。

徳武委員 今の給付金の関係でいいでしょうか。たしか塩尻市は所得制限があったと思うのですが、全体に対して何割ぐらいの方がこの給付金を頂けたか、もし分かればちょっと聞いてみたいと思ったのですが。

植野家庭支援課長 所管事務ではないので正確にお答えはできませんけど、児童手当ベースでしていますので、ちょっと何割かという数字は申し上げにくいですが、ほとんどの方が給付対象になっています。

徳武委員 ありがとうございました。

赤羽委員長 ほかに。

小林委員 こちらの報告にも書いてあるのですが、12月4日に豊かな心を育む市民の集いに参加をさせていただきました。主催側のお手伝いということもあったのですが、私、12年間人権擁護委員を勤めまして、今年が最後の集いです。初めてこんなに盛り上がり、今まで、サッカー山雅の方が来たり、有名なお寺の方が来たりというときはすごく参加人数が多かったのですが、お話を聞くだけのスタイルでした。

今回はファシリテーターをやってくださった内山先生が、うまくいろんな方の意見を聞くという形式でした。言い方は失礼ですけど、市民の皆さんはこんなにしゃべりたかったんだと思いました。御自身で持っている意見があつて、それを発信する場所が、ああいうふうにあったということがすごくよかったなあと、本当に今年よかったなあと思いました。あの会場にいて大変感激、感動して集いの会を閉じたという感じでした。

1点残念だったのが、第1部、中学生の人権作文の発表がなかったことです。毎年中学生の作文をもっと聞きたいということをアンケートにも載せられていたのですが、今年は1人だけの受賞でした。松本圏域で2,000人分ぐらいの作文が出て、40人ぐらいに賞がいろいろと渡された。その中に塩尻市内からたった1人しか受賞者がいらっしゃらなかったのです。その1人きりが受賞し、招待されてという形で、ちょっと尻込みされたみたいだったので、授賞式にはいらしてくださったんですけど作文は読めないというようなことがありました。

でも当日、私たち人権擁護委員も朝、作文発表がないことを知ったのですよね。だから、もし前もって知っていたら、ちょっとコピーを借りてきて御本人を説得、お話をしていたら。「2,000人の中の40人に入っているからすごいことなんですよ」とお話ししたら、お母さんが、「ああ、そうだったんだ」みたいな、ちょっと心が動いてくれそうな感じもあったのですが、そういう準備ができなかったのがすごく残念でした。市民の皆さんの中では、この中学生の作文を目当てに来てくださった方もいらしたと思います。多分1部が終わって帰ってしまった方が結構いらしたので、とても残念に思った次第です。そんな感想があります。

それと、最近のニュースの中で不登校についてまとめられたものについて、今日も新聞で少し長野県の不登校のことが載っていました。先日テレビで、不登校になる子どもの、ということが不登校の要因になるかというのを教育関係者が調べ、不登校になった当事者からのアンケート結果が発表されていました。学校の先生がきっかけだったというのが1位だったんですよ。不登校になったきっかけが、それが1位で二十何パーセント、30%近くでした。ただ教育関係者側が調べたものでは、「学校の先生との折り合いがつかない」は、1.3%でした。

いろいろな折に、不登校の原因が分からない、いろいろ複合的にあるからということをお聞きするのですが、やっぱりきっかけになることって何かあるのだと思います。その子が不登校になった近辺をもうちょっと丁寧に調べていけば、もう少しきっかけになったことは推測できるのかなということを感じました。不登校が、長期の30日になってしまわず前に、もう少し丁寧に最初の頃に担任以外の方が入ることで、その関係性とかを結び直す、そういうことができるんじゃないかなということ、ここ最近のニュースを見ていて思ったことです。以上です。

赤羽委員長 ありがとうございます。大事なところを伝えていただいてありがとうございます。

私、担任やっていたのですが、まだ当時は不登校と言わないで登校拒否って言っていたのですが、一時期登校を渋ってしまうお子さんがいました。そのときは担任である自分を責めました。その子に何が原因かとなかなか聞けません。担任が聞けなかったら第三者とか近い人が聞けば何か分かったかも。

碓井教育長職務代理者 先ほどGIGAスクールにも関係することについて中学生の意見の紹介がありましたが、その推進に関わることだと思いますけれども、11月30日に塩尻東小学校で行われた情報教育の公開授業を参観させていただきましたので、その報告を感想や要望等も含めてお願いします。

授業公開は5校時に特別支援学級も含めて全学年で行われ、私は1年から6年まで短時間ずつでしたが、全ての学年の授業を参観させていただきました。各授業ともそれぞれの課題解決に向けて、タブレット等を使って取り組んでいました。

その中で、1年生の授業の様子について少しだけ触れさせていただきます。授業は、国語の「むかしばなしをよもう」という単元で、自分が読んだ本の紹介を書く場面でした。子どもたちは、自分が紹介しようとする話の登場人物や面白かったところを文章で書いたり、本の表紙を写真に撮ってプリントアウトして、それを自分で書いた紹介文の用紙に貼り付けたりして、本の紹介カードを作っていました。ICT機器を使う場面で、担任の先生はできるだけ画面いっぱい写真が撮れるよう、タブレットの持ち方とか距離を工夫させたいと考えておられたようですが、ほとんどの子が見事にその狙いに沿って学習に取り組んでいたと感じました。

この授業については、授業の初めと終わりを参観させていただきましたけれども、授業の終盤には全員の表紙の写真の交換をタブレット上でしていて、1年生でこんなにタブレットを活用できるのかということにまず驚きました。そして、1年生にとって1校時45分という時間は、私は長いというふうに思いますけれども、その45分間の授業時間の最後まで本時の課題を追究する姿が心に刻まれたといいますか、そういう姿に心を動かされました。

この学校は、以前市の教育センターから紹介のあった授業のA小スタンダードを実践している学校だと思いますが、どの学年の授業でも黒板に課題の提示がされており、その課題解決に向かって子どもたちの主体的な学習が展開されていた、そういう感じがしました。そういう中で、子どもたちは自分らしさを出して楽しく勉強や生活しているように思われて、やはり学校は授業の充実が最も大事なのではないかとこの点を再認識させていただきました。

今後、このような確かな授業づくりの取組の中で、G I G Aスクール構想を進めていくことが大事だというふうに私は思いますし、ほかの学校でもこの東小の実践を参考にさせていただけることがよいのではないかと、そんなふう感じたわけであります。

この公開授業には市の教育センターの先生方も2人お見えになっていましたので、私の方とか、今後のこの公開授業の研究成果の活用の仕方、広め方とか、中学校でのG I G Aスクールの実践の様子とか、何か関連すること等がありましたらお聞かせいただければありがたいなど、そんなふうに思います。

また、当日G I G Aスクールサポーターが3名支援に入っておられました。たしか5月の定例会で教育長さんから、G I G Aスクールサポーターの皆さんは親身にやってくさっているという、そういう報告があったかと思えますけれども、私はその活動の姿を初めてこのとき見せていただきました。1年生の教室に入られた女性の方は、自然な温かな感じで子どものサポートに入っておられて、その支援の姿がとても印象的でした。G I G Aスクールサポーターの活動について先生方からは、授業での直接のサポートはとてもありがたい。また、直接相談できる時間もあって、授業で使えるツール等のアドバイスもいただけてたいへん助かっているという、そういう声が聞かれました。先月行ったほかの学校の学校訪問においても同じような内容が聞かれたかと思えます。今後もG I G Aスクール構想をよりよく推進していくために、また先生方が負担過重にならないようG I G Aスクール構想を進めていくという、そんな点も含めて、このような支援をぜひ継続充実させていただきたいと、そんなふうに思います。以上です。

赤羽教育長 ありがとうございます。センターということで、黒澤先生からありますか。

黒澤主任学校教育指導員 東小のICTの公開を参観し、丁寧に報告していただいてありがとうございました。基本的な授業構想をしっかり持って、そこにうまくICTを活用して各クラスで授業をやっていたということ、本当に同感であります。そのようなICTの生かし方がこれから大事になってくるのではないかと思います。教育センターでもこの授業の様子を校長会や教頭会で紹介し、他の先生にもグループウェアを通して各校に配信し、さらに実践を深めていきたいと考えております。

それから、中学校の話も出ましたが、中学校は教師がいろいろな写真だとか映像を提示し学習を進める使い方は、できるようになっているのですが、タブレットの利用ということにつきましては、主に子どもたちが調べたりだとかまとめたりする使い方は少しずつできるようになっていると思いますが、友達同士で学んだり全体で学んだりするための用具として使うことでは、まだ小学校に比べて課題があると思います。

それから、G I G Aスクールサポーターですが、碓井委員の話のとおり、学校でも非常にありがたがっていて、この1年間で、先生方もやり方が大分分かってきたところもありました。例えば、東小の授業の話が出ましたが、音楽専科が琴を使った作曲の授業をしたいということを提案したら、音を出せば琴の音がでるソフトを探してきてくれて、それを

全員のタブレットに入れました。5年生が作曲の授業で、和音階の小節を作曲するのにこのソフトを使って楽しく学んでいる姿がありました。とても私たちだけではできないことも、サポーターがいることで形になっていくこともありました。ICTの課題を持って取り組んでいる学校にとっては非常に有効に活用されているかと思います。以上です。

太田こども教育部次長（教育総務課長） 先ほど中学生の利用の関係がありましたけれども、中学生については、3年生を対象に導入している学習コンテンツのスタディサプリというのがあるのですけれども、個別学習として家庭でも使うこともできますし、授業中でも使えるものになっています。来年度に向けては、スタディサプリを中学1年生から3年生までに拡大することや、ICT支援員についても継続して配置できるように予算化を進めておりますので、よろしくお願ひします。

碓井教育長職務代理者 ぜひよろしくお願ひいたします。

赤羽教育長 昨日指導主事と教育長との懇談会を行いました。その中でGIGAスクールサポーターさんが書いたお便りをみせていただきました。GIGAスクールサポーター視点から有効なソフト紹介、子どもたちのいいところ、先生たちのいいところが書かれたお便りでした。第2号でした。紙ベースで全教職員に配布されていました。これは塩尻市ならではの取組かなということを感じています。

ほかはよろしいでしょうか。

石井委員 情報教育公開授業なのですが、私も12月2日、塩尻西部中学校の公開授業を拝見いたしました。今までお話しいただいたような様子が見られたわけですが、そういった取組が進められている中で、生徒たちがそれを経てどういった応用をしていくか、そこに楽しみが大きいかなと、そんな感想を持ちました。西部中のその日は地域学習のまとめの発表だったのですね。学年ごとにテーマが決まっていて、それを全校に向けて発表すると。放送室からテレビ番組みたいな感じで各クラスに配信するのですが、とても整っていましたし、機材の使い方なども、ああやって覚えていくのだろうと。機材関係についてはそんな様子でした。

内容は、地域学習ですので自分たちのまちについて調べてそれを発表したというところまでだったのですが、内容を聞いていると、それをどうやってこれから生かしていきますか、そこにとっても期待させるものを感じましたので、ITはそういったツールだというふうに考えることもできますので、自分だったらそれをどう使って、こういうふうに成果を求めていきたい、そんなふうになっていってほしいなど、何が派生してくるか、大変楽しみな様子でした。以上です。

赤羽教育長 ありがとうございます。そのほか、よろしいでしょうか。

碓井教育長職務代理者 電子図書館について質問なのですが、県立長野図書館が来年度から、パソコンやスマホで読める電子書籍を貸し出す電子図書館を、県内市町村と協力して始めるという報道がありました。専門書とか学術書のほか一般図書館の電子書籍の貸出しも検討しているということで、1人1台のタブレット端末が配備されている小中学校での活用も促していくと、そんなことも新聞には載っておりました。塩尻市も参加されるのではないかと思いますけれども、どんなイメージを持っていったらいいか、そんな点を教えていただければと思います。

宇治橋図書館副館長 共同電子図書館につきましては、県及び市町村立図書館職員によるワー

キンググループが設置され導入に向けた協議検討を進めています。県がプラットフォームを構築したうえで電子図書を購入し、県内市町村が負担金を出して電子図書を充実していく予定です。導入に向けた予算折衝を県で行っており実施についても確定しているわけではありません。学校での活用も視野に入れつつということなのですけれども、具体的な活用方法の検討はこれからという段階です。**碓井教育長職務代理者** 具体的にはまだこれからだ、検討段階だという点、分かりました。

碓井教育長職務代理者 11月の市のPTAの行政懇談会で親子文庫のあり方について協議が行われて、館長さんからも読書の大切さ等を含めたお話がありました。今後電子図書館等デジタル化が進む中で図書館関係も個別的には便利にはなっていくと思うのですけれども、多くの子どもたちに読書に親しんでいってもらうにはどうしたらいいか。教育長からその会の最後に読書する場の大切さというお話もあったと記憶しているのですが、そういう場を今後どう確保していくのか。電子図書館もやはり1つの場にはなると思うのですけれども、難しい問題が含まれているなど、現時点ではそんな思いを持っております。以上です。

赤羽教育長 大事な御指摘、ありがとうございました。
では、よろしいでしょうか。

○報告第1号 主な行事等報告について

赤羽教育長 報告のほうに行きたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。報告第1号、主な行事等についてお願いいたします。資料1ページから7ページです。事務局から主要な行事について、重なるところはあると思っておりますけれども、付け加えていただきながらやっていただければと思います。よろしく申し上げます。

太田こども教育部次長（教育総務課長） それでは報告第1号、主な行事等報告について、資料1ページ、こども教育部の行事報告になります。

11月28日に開催しましたこども未来塾中学生リーダー研修につきましては、小学生リーダー研修と同様に新型コロナウイルス感染拡大により昨年度は実施できませんでしたが、今年度第1回目の開催となりました。塩嶺体験学習の家を活用し、現在中学2年生で翌年度の中学校生徒会役員など学校でリーダー的な役割の生徒を対象に、ゲームや交流を通してリーダーシップの実践方法等を習得するもので、17人が参加しております。研修を通してリーダーとしての意識付けを行うと共に情報交換や交流を行い、リーダーとしての視野を広げることができました。私からは以上です。

赤羽教育長 続けて申し上げます。

植野家庭支援課長 私からはその下、児童虐待防止月間の取組と合わせまして研修会について御報告させていただきます。11月ですが、全国的に児童虐待防止月間ということで、それぞれの自治体等において取組が行われております。本市におきましては、一番上の児童虐待防止啓発チラシからテレビ広報の放送、こちらまでは例年どおりの取組になります。

今年度の新たな取組といたしましては、市内高等学校3校の書道部に虐待防止の標語の依頼をいたしまして、それぞれの書道部で力作を作ってくださいました。こちらをえんぱーく、えんてらす、総合文化センターでそれぞれ掲示をいたしまして市民の皆さんに御覧いただいたところでございます。

こちらでございましてけれども、やはり高校生の視点ということで、通常のポスターとまた

違う観点で作成していただきました。1つ例を挙げさせていただきますと、田川高校のポスターでございましたが、イライラしたら深呼吸、子どもの異変に気づける地域を築こうという文字をつづっていただきました。こちらは北部の子育て支援センターの前に掲示をいたしましたところ、そこに来るお母さん方がその標語を見て、「イライラしちゃだめだよ、深呼吸だよ。」と言って帰るような場面もあったということで、やはり高校生の作る作品の力というものを感じたところであります。また高校生という年代が今の時点では子どもでもあり、これから大人になっていく大事な時期にいる世代です。ですので、そういった世代に虐待防止の意義について理解していただくことができたということは、高校生が参加したということは意義深かったというふうに感じております。

その下、児童虐待防止研修会ですが、こちらも例年開催しておりますが、支援の現場に携わる職員を対象といたしまして、支援の現場における児童虐待の対応についてということで、峯本弁護士様からの御講演、こちらは Zoom を通じての御講演になりましたが、会場を保健福祉センター3階と合わせてオンラインの受講という形で開催をさせていただきました。教育委員の皆様におかれましても御参加いただきましてありがとうございました。

こちらですけれども、実際の児童虐待の現状、法律の解説等も含めまして学校現場の対応についても御講義をいただきました。我々にとってはとても意義深い話になりましたが、後半のところ、非常に先生、熱心に御講演いただいたということもありまして、学校現場における内容が若干薄かったかなというような印象もございましたけれども、こういったところにつきましては、こちらのほうでもまた学校関係者のほうへ伝達をしていきたいというふうに考えております。私からは以上です。

赤羽教育長 続けてお願いします。

小松平出博物館長 続きまして生涯学習部行事報告です。資料4ページの上段を御覧ください。

11月20日に「災害と考古学」を総合テーマにしました今年度最後の土曜サロンを開催いたしましたして、42名の受講者がございました。本市には、群馬県埋蔵文化財調査事業団、専門調査役をしております杉山秀宏氏をお迎えいたしまして、「古墳時代榛名山噴火による被災と復興」という演題で御講演をさせていただきました。この講演では、10年ほど前に、よろいを着たまま榛名山に向かって倒れこんでいた古墳時代の人骨が発見され、マスコミでも話題となりました群馬県の渋川市にあります金井東裏遺跡について取り上げ、遺跡の発掘調査を通して、榛名山噴火に伴う火砕流到達前後の人々の生々しい行動の様子や火砕流の激しさなどが明らかになるなど、まるで日本のポンペイのような遺跡の調査の全容について紹介されました。以上です。

田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長） 続きまして4ページの下段、令和3年塩尻市成人式です。先ほど来、話題としていただいておりますので、概要のみ御説明させていただきます。新成人699名余りに対しまして329名の参加で、参加率47%程度でした。例年7割近くの出席ですが、時期がずれたということもございまして、想定するよりは多くの新成人に参加いただけたものです。また、式典のみの成人式でしたが、新成人からは、開催されてうれしいという御意見を頂いておりますので、御報告させていただきます。

小松平出博物館長 続きまして、資料5ページの上段になります。11月28日、本洗馬歴史講演会が開催され、こちらには72名という多くの参加者がございました。講師には長野県立歴史館の村石正行氏をお迎えして、「三村氏と小笠原氏の時代」と題した講演をしていただ

きました。この講演では、信濃の守護で松本城の城主ともなりました小笠原家の動向を中心に、武田信玄や上杉謙信などとともに戦国時代の信濃で繰り広げられた乱世の様子を、文献資料などを使い、紹介されるとともに、洗馬周辺で活躍していました地元の豪族であります三村氏と小笠原氏との関係性にも迫るお話を聞くことができました。以上です。

宇治橋図書館副館長 5ページ中段です。11月28日日曜日に、信州しおじり子ども本の寺子屋、はやみねかおるさんの講演会を開催しました。参加は64名でした。小説「都会（まち）のトム&ソーヤ」などで人気の児童文学作家のはやみねかおるさんの講演会ということで、図書館イベント参加率が低い中学生・高校生が多く参加してくれました。質疑応答がありましたが、その中では多くの質問が飛び交い、作家と交流する機会となりました。今後、中高生が図書館利用や図書館のイベントに参加するきっかけとなることを期待しています。

田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長） 5ページ下段となります。12月4日、豊かな心を育む市民の集いを総合文化センターの講堂で開催いたしました。講堂というスペースでやったことで、111名の参加。小林委員が感想をおっしゃっていただいたとおり、にぎわった、盛り上がった会になったかと私も感じたところです。第1部として、人権擁護委員の皆様が中心に、人権の花運動であるとか人権作文コンテストの表彰式、また人権擁護委員の紹介等がありました。第2部として、パネルディスカッションを開催いたしまして、会場の参加者の皆様から御意見を聞いて、ともに考え合う集いとなったということをお報告させていただきます。

上條市民活動支援係長 6ページをお願いします。上段になりますが、12月4日にえんぱークリスマス2021を行いましたので、御報告させていただきます。市民交流センター、図書館、子育て支援センターによります3課連携イベントとしまして、えんぱークリスマスを開催いたしました。人形劇やクリスマスマーケット、おはなし会や一箱古本市などを行い、子どもからシニア世代まで、1,462名の方に参加を頂きました。クリスマスマーケットや一箱古本市では、地域で活躍している36のお店の方々に出店を頂きまして、来館者はもとより、出店者同士の交流の機会ともなりました。多くの方々がお買物をしたり、ワークショップを楽しんだり、またフォトスポットをつくっていただきまして、そちらのほうでカメラに笑顔を向けるお子さんも大勢いました。子どもたちが元気に笑顔を見せるにぎやかな1日となりまして、えんぱークが掲げる人の交流による新たな地域の知恵の創造につながることができました。

引き続き7ページ、12月11日・12日の両日にわたりまして、第6回、こどもだけの街「こどもしおじり」を開催いたしました。先ほど教育長からもおっしゃっていただいたとおりなのですが、実は昨年度、コロナウイルスの関係がありまして、直前にオンラインでの開催といたしました。今年度は、当初から企画・運営をしてくださっている「わおん」と何度も検討を重ねてまいりました。12月、今回が、ちょうど時期的に落ち着いておりましたので、例年より参加者の数を抑えてではありましたが、120名の子どもたちを迎えて、無事に開催することができました。

「こどもしおじり」の趣旨につきましては、教育長からも部長からもお話を頂きましたので、控えさせていただきますが、今回、お仕事ブースを27ブース、アカデミーブースを8ブース設置しまして、参加者と同数ほどの、専門家また運営ボランティアの方に御協力を頂きまして、子どもたちは2日間過ごしました。働くことの意義や納税、また社会の仕組みの

体験を通じて、学ぶことができました。コロナがなかったおとしにつきましては、お仕事ブースは39ブース、アカデミーは10ブース、お子さんも160名を迎えて、大がかりなものとなったのですが、今年、参加できたことを喜ぶお子さんたちが多くて、にぎやかに熱気あふれる街、子どもたちのまちづくりとなりました。以上です。

赤羽教育長 ありがとうございます。今、報告がありましたので、委員から質問や感想等ありましたら、また、お願いします。

石井委員 資料7ページ下段にあります第14回塩尻市民演劇フェスティバルを拝見させていただきました。制約のある中での開催で、資料にありますとおり、動員数、集客ですか、課題があるという、その辺は出たかと思うのです。

それは仕方ないとしても、とてもすばらしい内容だったと素直に思いました。私、午前中のみ拝見したのですが、志学館高校の劇はすばらしくて、高校生があれだけの演技をするのだなと素直にうれしく、かっこいいなと思いました。一生懸命取り組んできた成果とは思いますが、あれだけ上手にできるので、将来ぜひ生かす道があれば、すばらしいだろうな、そんなふうに思いながら見ておりました。ああいった舞台を経験して、自分の夢に向かって進んで行くというのは、とてもいいことだと思います。演劇に限らずそうだと思うのです。そういった活躍の舞台を用意することがどれほどできるのか、そんなことを感じながら、演劇を見ておりました。

環境が残念ながらそこまで整備されていないという現実で、夢をある程度のところで止めてしまう、そんなこともかわいそうだと思いますし、これから先、望むものがあれば、ぜひサポートをと、より期待をしているところですが、何かそのようないいお話になっているところがあれば、聞かせてください。

田下生涯学習部次長（社会教育スポーツ課長） ありがとうございます。ちょうど志学館の発表の場ときは、二十数名しかあのホールの中に入らない、少し寂しいかなと思うような状況でしたが、高校生の皆さんは、コロナ禍で活動も思うようにできない、後輩の勧誘も思うようにできないという苦しい状況で2年間過ごしてきた中で、発表の場が確保されたということで、大変喜んで取り組んでいただき、本当にいい機会を設定できたなと思っております。

演劇に限らず、芸術・文化活動につきましては、やはり子どもの頃に取り組んだことが将来につながっていく。直接的ではなくても、石井委員がおっしゃるとおり、間接的に将来につながる部分大きいと私も感じておりますので、こういった発表の場を市のほうでしっかり確保して、それぞれ皆さんが発表する喜びを感じていただいて、次のステップにつながるように、継続的に取組をしてまいりたいと考えております。

石井委員 御回答、ありがとうございます。おっしゃるとおり、様々な分野で活躍が期待されるような素材というのは、たくさんいると思います。それぞれの思いがかないますようにサポートいただければ大変うれしく思います。また、そういった優秀な方に、生まれた街に戻って来て、次の世代を育てていただく。とても夢のある話かと思っておりますので、そんなことも想定しながら、進めていただければうれしいです。

赤羽教育長 ありがとうございます。

そのほかございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次に進みたいと思います。

○報告第2号 1月の行事予定について

赤羽教育長 報告第2号、1月の行事予定についてお願いしたいと思います。資料8ページをお願いします。まず1点、訂正をお願いいたします。27日の定例教育委員会・協議会ですけれども、「市長」となっていますところを「全員」に、教育委員全員ということで、訂正をお願いいたします。

そのほか、全員に関わるものとして、12日の秋の叙勲賞賜物件伝達式がありますので、皆様の御出席をお願いいたします。

それから、新春書き初め会、昨年はできなかったものです。それで今年新たにということになっています。本の寺子屋、ちびてつなどの行事もありますので、御都合のつくところで御参加いただければと思います。

それでは、1月の行事予定表について、御質問などございますでしょうか。ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

では、次に進みます。

○報告第3号 後援・共催について

赤羽教育長 報告第3号です。最後のページになります。9ページ見ていただきまして、御質問、御意見がありましたら、お願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。それではないようですので、最後になりますが、本日予定されていた案件は以上ですけれども、委員の皆様から何かありましたら、お願いします。

〔「ありません」の声あり〕

赤羽教育長 ありがとうございます。では、事務局から何かありましたら、お願いします。

〔「ありません」の声あり〕

4 閉会

赤羽教育長 それでは、以上をもちまして、12月定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午後2時46分に閉会する。

以上

令和4年1月27日

署 名

教 育 長

同職務代理者

委 員

委 員

委 員

記 録 職 員 教 育 総 務 課
教 育 企 画 係 長
